



記念講演『21世紀の夢』

講師

堀場 雅夫

第2650地区1982～83年度ガバナー

ご紹介いただきました京都クラブの堀場でございます。本日は2780地区大会にお招きをいただき、また皆様の前でお話をさせていただくことで大変光栄に存じております。また、大変喜んで参加いたしました。特にこの地区には、私が82～83年のガバナーのノミネート時、国際協議会でお世話になったR I元理事蔵並先生がおられるので、永久に頭が上がりません。そういうことで大変私も楽しみにさせていただいておりました。

もうすでに私も40数年間ロータリアンをやっております。数えれば私もロータリーの会合に2500回近く出ているのではないのでしょうか。いつも会合のある朝には、あまりうきうきと楽しく出たことはございません。どちらかというとネガティブな気持ちで出る場合が多いのでございます。しかし、なんと不思議なことに、帰りがけは良かったなあという気がする。本日も皆さんの中には、決してうきうきとして来られなかった方がおられるのではないかとおられるのですが、帰る時には良かったと思われるような地区大会になればありがたいと存じます。そして、今日不幸にして天気が良いので他の用事を抱えている方もあるかと思われませんが、そういう方も地区大会に出席できなくて残念だったと思われる大会であらばと思います。

今日小淵さんが何と言おうが、堺屋太一さんが何と言おうが、やはり日本はまだ調子が悪い。ほとんどの人が閉塞感しか無い。何故？ これは非常に簡単なことでありまして、未来に対する予想が明確でないという一言に尽きるとおられます。社会のオピニオンリーダー、これは仕事の内容や規模を問わず、やはり責任を持っておられる方の大部分が、これからの21世紀はどのような社会になるのだろうか。政治や経済はどうなるのだろうか、自分でやっている仕事はどうなるのだろうかとお気がかりになる

時代であります。そして、そのために我々が何をすべきかを皆深刻に考えておられると思います。勿論、私もその一人であります。

ただ、21世紀を予想する前に現在置かれている日本の立場や現状を冷静に見る必要があると思われま。学者等が色々なことを言いますが、我々実際現場にいる人間には違うように思われます。独断ではありますが、私の考えていることを述べさせていただきます。

三つ程大きな問題を抱えているようです。

第一に、終戦後50年間で経済大国になった。その原因は、勤勉さもさることながら、アメリカという素晴らしい国があり、アメリカのキャッチアップをして、新しい考えをどんどん取り入れて、それに大きな付加価値を付けてマーケットを世界に上げた事にあります。これが大変大きな成果に繋がったのではないかと思います。しかし、アメリカもいつ迄も甘い顔はしていません。知的所有権や著作権やダンピング損害訴訟や税制等、様々な問題点で日本を攻撃して来ます。ここで日本人は、日本人独特のクリエイティブでイノベティブな創造性を発揮し、発想力を生かすべきなのです。よく言われることに日本人は、物真似はうまいけれども、新しい発想は下手であるとされているが、私は決してそのようなことは絶対に無いと確信しております。日本人は素晴らしい発想力を持っています。しかし残念なことに、この50年間独自の発想よりも、人の発想をうまく取り入れ、それを消化し付加価値を付けた方が、遥かにリスクが少なく効果が高かったのです。新しい発想に対する評価があまり高くありませんでした。しかし、急に新しい発想を生み出せと言っても無理なので、ここしばらくは日本人独自の発想が出るまでに時間がかかるとおられます。

第二に、ペリーが浦賀に来て、日本人は鎖国から

開国します。西洋文明が入ってきましたが今日本は国際スタンダード、グローバルスタンダードの中で本当の意味で、明治維新よりも激しい開国を迫られています。そして、日本のこれまで道徳と呼ばれてきたことさえも、国際スタンダードの前で、ちょっとおかしいのではないかとされています。諸悪の根源と言われている護送船団方式は「出過ぎるな」の教育のせいです。皆一緒に仲良く目的地に着くから、何の軋轢も無かったのです。これは日本の最高の道徳でした。今でも良い道徳であると思っています。しかし、遅い船足に合わせ、ヨーソロー、ヨーソローと進んでいる間に、アメリカは50ノット、韓国は40ノット、ドイツは55ノットのスピードで走っています。向い岸へ我々がついた時には、もう食べる物は何も残っていないということになります。もっと早く行ってくれ、そして食べる物を残しておいてくれというのが現状であると考えられます。

現在日本は世界標準、アングロサクソンスタンダードに席捲されています。そしてもっと嫌なのが、デファクトスタンダードであります。昔はアップルのマッキントッシュであるとか、マイクロソフトのウィンドウズ等、いろいろなコンピュータOSが出ておりいろいろな特徴を出していました。しかし、現在はマイクロソフトがほとんど世界標準となりつつあります。マッキントッシュは画像処理技術に優れているので、私どもはマッキントッシュを取り入れていたのですが、お客様の方からの要望でマイクロソフトに合わせざるを得なくなって来ています。どうして、安くて、使い勝手の良いものが駄目になるのか。これは、世界全体の流れがそちらに変わると良い物でも売れなくなってしまうという現象が起きてしまっているからです。これは青天の霹靂です。性能が良く、使い勝手の良い物を今まで作ってきた訳ですが、これも世界標準でなければ一銭の価値も無い時代となってしまったのです。しかし、これからは日本人独自の世界標準を確立するべきであると思われま。

第三に、西欧近代文明とは、近代資本主義を前提とした自由主義経済下に科学技術が取り入れられ、

富と繁栄がもたらされた文明であると言えます。科学技術と自由主義経済は車の両輪であります。日本も明治維新以来西欧文明を取り入れ、特に戦後は科学技術と自由主義経済の車の両輪をどんどん回転させたのであります。

近代資本主義が全ての点で人間にとって本当に幸福をもたらすのかは問題です。富の偏重、弱肉強食、弱いものは強いものに肉を食われてきました。日本の様に力の均衡があるときはよくても、強弱がはっきりすると強いものがますます強く、弱いものがますます弱くなるという力の偏重が起きます。

自由主義経済は大きければ大きい程強くなり、経済活力は増します。しかし、沢山物を作って売るといことは、一方において廃棄しないと物が売れないということです。例えば、新しい自動車を買う時には、古い自動車を捨てなければなりません。新しい車を造れば、古い車は廃棄される。消費すれば必ず廃棄が起る、消費とは、裏に必ず廃棄があるのです。沢山物を作るということは地球の資源やエネルギーを使い、一方において環境破壊を起こすこととなります。自由主義経済は、地球環境に対して、システムとしてネガティブです。90、91年R Iは地球環境問題を取り上げてきました。しかし、あまり効果を挙げられず、かつ冷やかであったと考えられます。今後ロータリークラブは地球環境問題をもっと取り上げ、何か手を打つ必要があると思われま。



一方、科学技術の進歩は人間の幸福に役立ちます。農業技術が発達することにより、人間の食料供給に貢献しています。現在60億の人間に供給できるところまで来ています。

新しい医学、医療、医薬が発達し、人間の病気の

苦悩からの解放に貢献しています。あるいは、新しい電化製品が開発され、人間は家庭労働から開放されています。また、新しい交通機関が開発され、世界中どこでも飛び廻ることが出来ます。人間にとって科学技術の進歩は、人間の幸福に直結しています。しかし、科学が生命の分野に深入りすれば虎の尾を踏んだこととなります。



DNA鑑定、医薬品開発や医療技術が目覚しく進歩しています。例えば、癌の早期発見が可能になりました。自覚症状が無いのに乳癌になるからといって、女性から乳房を摘出し、乳腺を取った。これは、本人にとっても大変な苦痛であり、男性にとっても悲しいことでもあります。人工授精は大きな問題提起となっています。良い男のみの精子を採り、女性はそれのみを受け入れるようになると、世の男性には悲しい結果が待ち受けることとなります。またクローン技術の発達は、人間そのものの複製をも可能にします。私個人としては自分のクローンを造って仕事をさせたり、ロータリーのメイキャップに利用するといったと思っているのですが。

科学技術の進歩はどこまでが幸福で、どこまでが幸福でないかが難しいと思われまます。

新幹線「のぞみ」を良く利用します。時間的には充分日帰りすることが出来ます。しかし、東京で今日ちょっと泊まるというと、秘書は「えっ」と言う。銀座でなじみの店も日帰りが可能になってしまうとゆっくり行けなくなって、楽しみが「のぞみ」によって取られてしまうこととなります。科学技術の進歩は大きな問題を内包しており、我々は非常に重たい問題を背負って21世紀を歩いていくしかありません。

これら三つの問題を解決するのは個人であります。21世紀は「個」の時代であり、「個」がキーワード

です。20世紀の延長線上に21世紀はありません。20世紀は集団の時代でした。国家があって、国民があり、会社があって社員がいて、必ず冠があって個がありました。

ゴルフのコンペで、キャディーが「社長さん」や「会長さん」というと、みんなで、きよろきよろしている。私は堀場雅夫ですと言っているのに呼んでくれない。自分のことを「会長さん」と最後まで呼んでいました。これが固有名詞で呼ばれるようにならないといけません。

しかし、日本人にとって、「個」の主張はなかなか難しい。日本人はブランド好きです。高そうな服を着ているが、ちょっと似合わない女性があります。然し、「シャネルです」、「エルメスです」と言われると誉めざるを得ない。やはり、日本のサクセスストーリーとは有名大学を出て、高級官僚になるか、一流会社の役員になるか、弁護士や医師になるというブランドが必要である。

ベンチャーを起すのは、日本では勤める所が無いからで「かわいそう」と言われています。これは日本の偏差値教育のせいです。決まった答えに如何に近付けるかの能力で成績が決まる。この教育は日本の品質管理重視に適合しています。一昔前、アメリカ製品は品質管理が行き届いていなかったが、日本の品質管理は優れていました。日本は各工程でそれが優れていました。人間を品質管理するには偏差値教育が適していました。しかし、本質的に人間の品質管理は難しいのです。神様が色々な違う特徴を持った人間を造りました。しかし、人間はその特徴を生かしきれいていません。教育の「エデュース」とは「引っ張り出す」と言う意味であります。その人の特徴を引き出すことが大事であります。神から与えられた特徴の中から良いものを引き出すことが大事であります。個の時代は、その人の好きなものを伸ばす教育が大事であります。嫌なものを教わっても覚えられません。日本はこうしないと欧米に追いつけません。

そして、人間の凄さを自覚すべきであります。あるロボットの会合に出た際、その席で、人間はいったいいくらですかと聞いたら、一番安い先生で1000

億円、一番高い先生で3500億円と言われました。皆さんはどう思われますか、高いと思われますか安いと思われますか。それから2、3日後ある入社式に出ました。出来の悪い一番安い社員でも1000億かと思ってみて、その初任給と比較しました。半値8掛け2割引してみても1000億という数字には程遠い。初任給300万円位出せるような人の使い方が出来るようにならないとだめではないかと思われ、人間の使い方がおかしく、そこにはとんでもないギャップがあるように感じられました。

人間の目、鼻、口、耳等の感覚、センサーは凄いものです。小学時代の同窓会が開かれたとき、60数年前、当時12、3才で別れた女性でもちゃんと分かります。日本最高のシュミレーション能力、画像処理能力や認識能力のあるコンピューターでも不可能でしょう。

多くの会社が音声の認識に力を入れていますが、機器でアイデンティティーを判別するのは難しいことです。人間は音声認識が進んでいます。嘘迄見分けます。人間の感覚と情報処理能力をソフトウェアやハードウェアにすれば、100か200億円位はかかってしまいます。

それだけではありません。人間のエンジンは凄い！人間は豚以上に何でも食べ、エネルギーに変換します。ガソリンエンジンは1000℃以上に温度が上がりますが、人間は36℃前後で動かすことが出来ます。私は、ラグビーをしていた頃、駆伝の選手になったことがあります。人間は最後まで、はいつくばっても走ることが出来ます。ペントでもロールスロイスでもガソリン切れで止まったら最後、もう少しといっても走ってくれません。人間の抗体抗原反応も凄い！敵が来るとみんなやっつけられるし、命令しなくても出来る。これは自衛隊にも出来ません。これには、3000億円、1兆円くらいかかるでしょう。

しかし、人間は儂い。人間の時間の観念は儂い。人間は70から80才位まで生きるとしたら、時間の観念は、自分の寿命に連動しています。もういくつ寝るとお正月と子供の頃は言ったものであります。子供の頃はなかなか時間が進みません。子供の場合、1日がそれまでの人生のかなりの割合を占めていて

大きいのですが、70歳以降はその割合が小さいので観念的に進行速度が速いのです。地球から見た自分の人生とはどうでしょうか。地球は46億年前に誕生しました。今地球の年齢はというと、人間にして46歳位です。その地球の時間軸でみると、人類が誕生したのは10日程前、イエス・キリストは10分前に生まれ、堀場雅夫は20秒前です。地球から見たら相対的にその位のものであり人間とは儂いものです。だから、毎日毎日楽しくすることが大事です。いかに面白おかしい人生を送るかが大事です。毎日働き甲斐が有り、楽しい人生を送るかに尽きます。



人間は四つの顔を持ちます。一つ目はプライベートな顔、肉親、親しい人への顔であります。二つ目には、社会人としての顔、三つ目には職業人としての顔であります。四つ目には生物の一種としての顔であります。どんな人間でも、四つの顔を持ち、少しずつ自分の価値観等が違ってきます。神は五欲を与えました。一方、倫理を与えました。五欲とは食欲、性欲、物質欲、名誉欲や征服欲等であり、倫理とは愛、慈悲、理性、奉仕等がこれらにあたります。神は人間のみこれらのことを別々に与えられ、さらに規制することを与えました。動物は自動的に規制するようにインプットされていますが、人間はこれらの欲を自分でコントロールしないとイケません。苦しい性です。21世紀は、限らない欲望を制限しないとイケません。儲けることが主義だと言う人がいます。動物は腹が一杯になると殺すのを止めますが、人間は食べられないのに殺します。これが21世紀に持ち込まれる大きな問題です。これらを政府や、日本赤十字や、サミット等では抑止出来ません。一人一人が抑止力を持たないとダメです。ここであまりロータリーの話はしたくないですが、ロータリー

の奉仕の精神は、これらに対し大きな役割を果たすと考えられます。欲と抑止力のバランスをとることが大事です。これを宗教が出来るかという出来ません。宗教と宗教の争いは酷い。宗教戦争が代表的である。このような意味においてロータリーは大きな使命を持っています。

会員増強はロータリーにとって大問題ですが、現在良い状態であるとは言えません。ロータリーは、現在若い人に対する魅力をどんどん失いつつあります。単なるステータスなのではないでしょうか？ 21世紀に大事な役割を果たすべきですが、多くの人にロータリーが重要な立場にあると認識されないのは反省すべきです。100%出席、これは自己チャレンジです。前後2週間、4週間でメイキャップできるはずであり、100%出席が当たり前です。これが出来ないのは欠陥人間です。昔、90%しか出席できない時は紹介者に怒られました。海外出張の時には100%を切りましたが、その時以外は100%です。ソ連に行った時は、モスクワからスイスに渡り順当にメイキャップするはずでありましたが、モスクワでの用事が再度発生してしまったので、スイスでメイキャップ後又すぐにモスクワに戻りました。これが一番高く付きました。やろうと思ったら100%達成できるはずで、仕事もうまくいって、健康であり、家庭も円満である場合、100%出席は可能なはずで、そうでなければ、それらのどこかに欠陥があるのでしょう。会員増強といっても無理して増やしてはいけません。商売でも無理して売ってはいけないのと同じです。質を高めることが重要です。

持ち時間が終わりに近づいてきました。最後にR I会長のテーマですが、R I会長の言葉は大事です。日本で初めて東京で国際大会（1960～61年度）がありました。その時、京都クラブがS A Aの役割を担いました。若手が5、6人集められ、「お前達、副S A Aやれ」と言われました。その役割とは、晴海の会場に15000人しか入れないのに20000人入る予測であるとのことで、15000人になったら副S A Aがドアをガツと閉めることでありました。中から閉めたので、私は中に入りました。その時の、エド・マックラウリンR I会長のスピーチのテーマが良かった

のです。「ユー アー ロータリー・You are Rotary」です。「ユー アー ロータリアン・You are Rotarian」ではないのです。「ロータリーが面白くないと思ったらそれは、おまえが面白くないのだ」という投げかけです。つまり自分がプレーヤーなのです。観に行っているわけではないのです。これが今までロータリーをやってこられたお陰です。

もう一つ、向笠R I会長の言葉に「マンカインドイズワン・Mankind is One」があります。人種や偏見を超えて、良いことは良い、悪いことは悪い、つまらないことはつまらない、素晴らしいことは素晴らしい、と考えるのは世界中の人達は皆同じだという事実は人間の本質をついています。

83～84年のウィリアム・スケルトンR I会長が、「シェアロータリー・Share Rotary」、ロータリーを分かち合おうと述べられました。私はこれを、ガバナーの時に「おすそ分けの精神」と言いました。会員増強とは取りも直さず「おすそ分けの精神」です。ロータリーが本当に素晴らしかったら、友達近所の人にも紹介し、分かち合おうとします。何故紹介しないか？ 本当にロータリーが良いと思ってないからでしょう。安くて美味しい店だったら必ず紹介するはずで、会員増強しないのはロータリーが高くてまずいからです。

最後にヒュー・アーチャーは「エンジョイロータリー・Enjoy Rotary」と述べました。私はクラブ会長の方針として「エンジョイユーアライフインロータリー・Enjoy Your Life in Rotary」と申し上げてきました。ロータリーを楽しんでいたきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

